



外  
村  
英  
治  
様

滋  
賀  
縣  
神  
崎  
郡  
五  
箇  
庄  
町  
金  
堂

絨

昭和三十年十月二十一日夜

横浜市港北区小机町

小机幼稚園内

小川

十月も半ばを過ぎ 身に感ずる 冷い風が吹く頃となりまして  
ずい分 御ぶさたしております

何か書いてよいか 貴方が急に渡米される事を森上さん  
からお便りで知り 本当に思われませんでした。

でも 来ル 二十八日 もう早や出発との事 急いでペンを取った  
次第です！ 何かが一生のお別れなりそうでは心配です！

森上さんとも小学 中学 高校と ともにされた 幼い思い出  
あるいわ 梨、思い出 多種多様なこの思い出を いっまでも  
いっまでも わすれないで下さいませ

「親友と別れる事 本当に一生別れる事はなく又淋しい  
最大の友であったと 今更々作ら思っている」と森上さんは書いて  
おられます 本当に貴方にとって 森上さんはいっお友達でいっね

貴方と別れる事 本当に心から悲しんでおられる森上さんです  
森上さん  
いっまでも いっまでも 忘れ得ぬ よき友であって下さいませ。

最後に私も貴方のと別途、心から祝福致します。  
どうか元気で勇気を出して自分の道を御用き下さい。  
「当てる砕けろ」と云う言葉。古い言葉ですが味のある  
言葉です。この言葉を私の最後と致します。

では さようなら

小川道代

外村英治様